

女性医師と医学生の おしゃべりフォーラム

報告書

日時:1月12日(土)14:00~16:30

場所:札幌医科大学

《開催趣旨》

私たちは、女性医師が、子育て支援など環境が整備されていないために、働きたくても働きつづけられない女性医師が増えていることを深刻な問題と捉えています。性別に関わらずすべての医師・医学生が女性医師の働く環境を考えていくことが、全国で深刻化している医師不足問題の解決にもつながるのではないかと考えました。

それと同時に、医学生が将来に対する疑問や不安、悩みを打ち明ける場があまりにも少ないと感じています。医学生が自由に医師と話をし、自分たちの将来を考え、医師の勤務環境の現状に関する問題意識を共有したいと思い、企画しました。

具体的な目的としては、以下のことを考えました。

女性医師の現状を把握し、問題意識の共有をする。

実際に働いている医師の話聞き、将来に対する疑問や不安、悩みを出し合う。

《企画内容報告》

(1) 実行委員による開催趣旨説明・問題提起

日本では働き続けることのできない女性が多く、これが医師不足につながっているのではないかと。休暇、施設、復職支援など、女性医師の勤務環境を整えていくことは、患者さんによりよい医療を提供することにつながるのではないかと。これらのことを、国別・年齢別の女性就業率のグラフなどを用いて提起しました。

(2) 医師による講演

講師は、守内順子先生、新谷朋子先生、長島香先生、河上彩恵先生の4氏に依頼し、快く引き受けてくださいました。

守内順子先生（クラーク病院 内科、北海道女性医師の会 会長）

守内先生は、これまでの「北海道女性医師の会」の取り組みについてご講演されました。育児支援や性差医療などの勉強会を行ってきたことや、女性医師の増加の一方でおこる医療崩壊・医師不足対策として、女性医師が仕事を続けられる支援が必要と話されました。「北海道女性医師の会は北海道で働く女性医師のサポーター集団です」との心強い言葉に励まされました。

新谷朋子先生（札幌医科大学 耳鼻咽喉科）

新谷先生は、札幌医科大学の医学生を対象に行ったアンケート結果の一部と、以前、医師と医学生対象に行ったアンケート分析についてお話しされました。男性と女性の子育てに対する意識の差などをグラフから知ることができました。また、女子医学生

よりも女性医師の方が女性であることをメリットと感じる割合が高いということで、安心した学生も多かったようです。

長島香先生（勤医協札幌病院 産婦人科）

長島先生はご夫婦そろっての参加でした。多忙な日々は、家族・同業者・ご近所・PTA・病院職員さん・患者さんといった多くの人とのつながりによって支えられてきたことをお話されました。働く病院の選択とパートナー選択の大切さを感じました。

河上彩恵先生（勤医協札幌病院 内科）

河上先生は3歳のお子さんを連れての参加でした。医師・母の2足のワラジをはいたリアルな生活実態についてお話されました。子育ての苦労や、それをどのように乗り越えているのかについてとても実感のこもった体験談であり、大変ではあるけれど生き生きと医師ライフを送ってられる様子が伝わりました。

（3）フリートーク

フリートークでは4テーブルに分かれて、先生たちに学生からの質問に答えていただくなどして楽しい時間となりました。話がはずみ、時間が足りなかったという学生も多かったようです。医学生にとって、医師と話す機会は貴重なものであると感じました。

（4）実行委員からの提起、呼びかけ

私たちは、今回の企画で終わりではなく、今後も女性医師の勤務環境の改善に向けて学習会や現状調査を進めていきたいと考えています。そこで、できるだけ多くの学生と問題意識を共有し、広がりを作っていくために、一緒に活動していく仲間を募集しました。今のところ具体的にどう活動していくか決まってはいませんが、13名もの学生が興味を持ってくれました。

《アンケート（感想文）結果》

回答者：男2、女21

この企画に参加した理由・目的

- ・ 医師の話を聞いてみたい。（仕事・家庭・子育ての両立など） 12
- ・ 将来の不安や疑問があつて。 4
- ・ 人に誘われて。（友人、彼女、彼氏） 4
- ・ 前回もこのような会に参加したことがあつて。 3
- ・ 宣伝により興味を持ったので。 3
- ・ 将来のことを考えて。（研修先、科） 3

- ・ テーマが面白いと思って。 1
- ・ 医療の将来を考えたいと思って。 1
- ・ 社会学実習「女性医師の生き方」の参考に。 1

医師の講演についての感想

- ・ 安心した、勇気が出た、希望が持てた。 10
- ・ バランスとりながらやれば両立できそう。
- ・ 人生長いから諦めなければ実現できそう。
- ・ 女子であることをメリットと考えている医師が多いことに勇気が出た。
- ・ 参考になった。(いろいろな生き方) 9
- ・ 具体的な話を聞いてよかった、興味深かった、嬉しかった。 8
- ・ 先生方が明るく話し上手で楽しかった、面白かった。 4
- ・ 仕事と家庭を両立していてすごい。 4
- ・ 「女性医師の会」に興味を持った。 1
- ・ 医師、女性として尊敬できた。 1

フリートークの感想

- ・ 直接(ざっくばらんに)質問したりアドバイスをもらえて良かった。 12
- ・ 参考になった、勉強になった。 4
- ・ 楽しかった、面白かった、有意義だった。 4
- ・ 安心した、勇気が出た、希望が持てた。 3
- ・ 結婚について話せてよかった。 2
- ・ 子育て、家庭との両立について話せてよかった。 2
- ・ 初期研修やマッチングについて聞いてよかった。 1
- ・ 他学生の考えも聞いて充実していた。 1
- ・ 先生方のようになりたいと思った。 1
- ・ フレックスで働くためにはそれ相応の資格が必要だとわかった。 1
- ・ これらの他、改善点として、
- ・ 時間が短かった。 2
- ・ 一対一で話す機会があってもよかった。 1 という意見もありました。

医師の勤務環境や仕事と子育てとの両立について、どんな問題意識を持っていますか？
また、問題解決のためにはどのようなことが必要だと思いますか？

【問題意識について】

様々な意見が書かれていましたが、「それほど心配しなくてもいいのではないか」、「勤務

環境は整ってきているのではないか」、「自立レベルになればどうにでもなるのではないか」という、楽観的な意見も見られました。

- ・ 医師不足が問題である。
- ・ 仕事と子育ての両立ができるのか。
- ・ 男女ともに勤務時間が長い。
- ・ 家庭のことに時間が取れない。
- ・ 出産、育児でやめざるを得ない。
- ・ 妊娠でくびになったという話を聞き驚いた。
- ・ 女性だけが考えていても何も変わらない。
- ・ 女性は責任ある立場に就かせてもらえない。
- ・ フレックスで働ける病院はどれくらいあるのか。
- ・ 院内保育園はどの程度あるのか。

【問題解決のために】

- ・ 男性の理解 7
- ・ 職場などの理解、雰囲気、環境、協力 6
- ・ 院内保育園などの施設 5
- ・ サポート体制（フレックスタイムなど） 5
- ・ 産休、育休 3
- ・ 復職支援 3
- ・ 情報公開、現場の声を訴えていくこと 3
- ・ 医師不足解消 2
- ・ 女医会などの力 1
- ・ 職場や家庭での話し合い 1
- ・ どんな形でも医師を続けていくこと 1
- ・ 夫婦双方が仕事と家庭のバランスを取ること 1
- ・ 生み育てるタイミング 1

改善点など

- ・ 席が少なかった。
- ・ 時間が足りなかった。
- ・ 研修医など、年齢や立場の近い先生の話も聞きたかった。
- ・ 色々な先生とフリートークができればよかった。
- ・ 男性参加者がもっといてもよかったのではないか。

《今後について》

今回私たちは、4名の医師の講演を聞いて、女性医師に多様な働き方があることを知りました。同時に、多くの学生が将来に対し不安や疑問をもっていることがわかりました。当日の参加者数は実行委員会で想定していた規模を大きく上回る37名でした。このことは、昨今の報道にもみられるように、医師の過重労働や医療崩壊が背景にあると考えられます。

実行委員の反省として、このフォーラムの目的にあたる「問題意識の共有」が不十分であったと考えています。アンケート結果からもわかるように、医師不足問題に目を向けている学生が予想より少ないことや、問題意識をもっていない学生もいることからそう考えました。今後は、全国の医療機関の勤務環境について学習を積み重ね、現状を知りたいと思います。そして、医師の勤務環境について興味を持つ人の輪を広げ、勤務環境の改善・医師不足解消に向けた、大きな力にしていくことが私たちの課題であると考えています。

また、多数の参加者から、またこのような会に参加したいという声が寄せられました。なので、今後も学生が将来の悩みや疑問を出し合う場を作りたいと思います。

医師不足・医療崩壊はまったなしの社会問題であり、これらの解決のために学生だからこそできることがあるはずだと考えています。また、多様な働き方は医師・医学生の願いでもあります。そして、患者さんによりよい医療を提供することに繋がるはずです。

このような思いを軸に、今後も活動を継続していきます。